東京ジャーミイ金曜日のホタバ

預言者ムハンマドと障害者

2011 年 6 月 10 日

親愛なるムスリムの皆様。崇高なるアッラーは、英知の上に英知を重ねられ、人間を様々な形や特徴、様々な条件のもとに創造されました。そして人間を、その違いによって試されておられるのです。試練の条件が特に重い人々が、障害者です。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。学者たちは、預言者ムハンマドの障害者に対する態度について述べる際、身体障害者と精神障害者の二つに分けてて評価しています。身体障害者の第一に視覚障害者が挙げられます。預言者ムハンマドのハディースでは、視覚障害者についてより多くの見解が語られています。預言者ムハンマドは、目が見えなくても忍耐する人には、天国という報奨が与えられると述べておられます。視覚障害者に対し悪しき振る舞いをする人々を非難されています。

預言者ムハンマドの視覚障害者に対する最も良い例は、有名な教友イブン・ウンミ・マクトゥムに対する振舞いにおいて見ることができます。預言者ムハンマドは彼に、預言者モスクのムアッズィンという任務を与えられました。加えて彼を、公共の任務のうち最も高い職位、すなわち自身の代理者、言い換えるなら国の長の代理人として雇われていました。

親愛なるムスリムの皆様。預言者ムハンマドは障害者を、他者の施しで暮らす者、助けが必要で自分では何もできないと運命づけられた人々とは見なされませんでした。障害者にも、彼らの能力に応じて働くことが推奨され、彼らの商売を容易にする法が定められました。一方で預言者ムハンマドは、障害者に対し彼らの力が及ばないことについてはそれを免除されました。伝承によれば、アムル・ビン・ジャムフは足が不自由でした。にもかかわらず彼はバドルの戦いに参加することを望みました。しかし預言者ムハンマドはそれを許さず、彼の戦いへの参加を免除されました。アムルは後にウフドの戦いにも参加することを望みました。彼の息子たちは、バドルの戦いを例に挙げ、それを断念させようとしました。それに対しアムルは再度、預言者ムハンマドに参加を申し出たのです。預言者ムハンマドはあなたには正当な理由があり、戦いに参加する義務はないと伝えられました。しかしアムルが強く参加を求めたため、ついにそれを許可されたのでした。そして戦いに参加したアムルは、いつも彼の後ろで彼を守ろうとして戦った息子と共に殉教者となったのです。

社会のあらゆる立場の人々と関わりを持っていた預言者ムハンマドが、精神障害を持つ人々と関わっていなかったこと、彼らを放っておいたことは考えられません。事実、精神疾患を持つ人には宗教上の責任が免除されるということを次のような言葉で明らかにされました。「三つの状態にある人々には責任が問われない。それは思春期前の子供たち、目覚める前の眠っている人たち、そして回復する前の精神疾患を持つ人たちである。」

預言者ムハンマドは、健康な人々の障害者への態度をただす道徳を示されました。視覚障害者に道を教えること、聴覚障害者に言葉を教えることをサダカとして評価されていたのです。

生まれつきの障害者、あるいは交通事故、火事、自然災害など、様々な理由で障害を持つに至った人々に対し、預言者ムハンマドの説いた規範にのっとって振舞いましょう。彼らを社会に参加させ、生産的で、成功した、幸福な生活を営むことができるよう、私たちの責務を果たしましょう。